

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071300554		
法人名	有限会社 エス・エイチ・シー		
事業所名	グループホーム ひいの郷		
所在地	福岡市城南区樋井川4丁目10-10 (電話) 092-874-6332		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 29 日	評価結果確定日	令和 4 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様一人ひとりが楽しく生き生きと生活ができるように、その方の習慣や生活のペースを大切にしながら個々の能力が発揮でき、楽しく穏やかな暮らしができるよう心掛けている。また、ご家族が入居者様に寄り添い支えて行けるよう、ご家族が面会に来やすい雰囲気作りに心掛けており、面会時などには情報共有を行い、行事などの参加や個人レクの提案をおこなっている。地域との交流も自治会様と連携がとれており、地域行事への参加や協力も積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 13 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームの構造は平屋で、建物の前に庭があり、散歩ができ、各ユニットに往来ができる。周辺には中学校や病院、商店などがある。利用者の生活歴が長く、介護度も高くなる傾向があるが、その人らしい生活ができています。周辺に大きな団地があり、餅つき行事や防災訓練など地域活動が活発になされています。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の中に『地域の中で生きていく』と分かり易く盛り込まれており、リビングと事務所の目にみえるところに掲げ、毎日のケアに繋げている。また毎月の職員ミーティングの中で唱和し職員への意識付けを行ない。地域との行事等にて交流を図っている。	毎月、職員会議の際に理念を唱和している。理念には地域の中でその人のペースを大切にしている生活目標があげられている。ユニット会議でも5つの理念の実現に向けた取り組みがなされている。ユニット会議などでも職員間で理念の意識づけが行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶を職員へ周知し、入居者様の散歩等で顔が見える関係性作りを心掛けている。地域行事への参加、事業所行事の協力を、地域自治会と密に連絡を取り、積極的に行い入居者様にも交流を楽しんで頂いている。（現在は新型コロナ感染対策上、交流が出来ていない。）	事業所は地域の自治会に所属している。地域の行事に職員が参加して、「ひよっこ踊り」などを披露している。子ども会でのハロウィン行事や幼稚園、中学校とも交流がなされている。近所の方から収穫した芋のおすそ分けをいただく等、地域と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流、行事参加などを利用した認知症啓発活動や住民向けの認知症サポーター講座で認知症の方への支援方法を伝えている。近隣自治会より、認知症の相談窓口との認識を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、事業所の活動やサービス状況の報告と事故報告、身体拘束委員会の報告を行い、意見交換にて業務の改善、見直しに活かしている。特に、事故報告、身体拘束・高齢者虐待防止について、活発な意見交換が行われている。（現在は新型コロナ感染対策上、交流が出来ていない。）	2ヶ月に1回運営推進会議が開かれている。近隣の団地などから参加され、構成員は多い。園の状況や活動内容などが話されている。通常は10名ほどで開かれている。法人のデイの部屋を使用しているが、今年度は新型コロナ感染防止のために開催できていない。	コロナ禍であるが、利用者やサービスの実際等について、書面で構成員に配布し、意見をもらう等、事業所のサービス向上に活かすことができるような方法を検討してほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、事業所の活動、サービスの報告に対して、アドバイスを頂いている。社会福祉協議会のボランティア受入れについての連携も密に活動して頂いている。	グループホームの状況などを区役所や地域包括支援センターの職員に必要に応じて連絡している。社会福祉協議会の「認知症高齢者110番の家」に登録されており、ボランティア受け入れなどで関係性を保っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束0』宣言を提唱した上で、2ヶ月に1回、身体拘束・虐待防止介護技術委員会を実施し、身体拘束の実情、成り得る事例等を通話し、取組みを考えている。その月のミーティングで職員に伝達し、全職員で取組みを行っている。	日中玄関や居室に施錠はされていない。2ヶ月に1回、身体拘束防止技術委員会を開催し、身体拘束防止や人権を侵害しないための技術委員会を開いて、利用者の行動制限等を無くすよう努めている。職員は研修に参加し、研修記録を整備している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講した職員からの伝達研修をユニットごとに行っている。また身体拘束・虐待防止介護技術委員会でも成り得る事例を話し合い、各ミーティングで職員に伝達し、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当法人代表のコンプライアンス研修を年一回学ぶ機会が作られているが、制度について学ぶ機会が少なく、外部研修に頼っている。全職員が理解し活用できるまでには至っていない。	権利擁護に関する制度について、入所時に利用者や家族に伝えている。家族などへの説明のための関係資料は配置されている。職員には法人代表による人権研修が行われている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書の内容をお渡し目を通して頂いている。契約時には利用者様、ご家族の前で読み上げ、質疑を受けている。また、改定があった際は、家族会でお伝えしたり、紙面にてお知らせしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の中で、家族だけのディスカッションの場を設け、意見や要望を頂き、内容を集約し運営に反映している。事業所玄関に意見箱を設置し、家族が意見等を出し易い環境を作ると同時に、面会や電話時に意見や要望を聞き出せるよう心掛けている。また、外部の相談窓口先を掲示している。	年1回、家族会が開催されており、利用者や家族から生活上の要望や意見が出される。外出先や希望の食べ物について、実現するための意見を出すなど、利用者意見が運営に生かされている。職員は利用者の気持ちを受け止め、利用者主体を心掛けている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回、管理者による職員面談を実施し、職員の法人や事業所、働き方等に対する意見を抽出している。	年1回、職員会議などで職員は自己評価を行い、運営に関する意見し、必要に応じて運営に反映させている。管理者は年2回、職員との個別面談を行い、様々な提案を聞いている。ユニット間での交流は行われていて、各ユニットでの取り組みなどが話し合われている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や、管理者、主任による職員面談の報告の中から、職員個々の実績を把握し、スキルアップや職場環境・条件がよくなるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用において性別や年齢などの制限は一切設けておらず、実施していない。働く職員に対しても、個人が生き生きと勤務できるよう、家庭環境や体調に配慮し労働条件などの意見や要望が言いやすいよう配慮している。	職員採用時の性別や年齢による差別はされていない。職員が能力を発揮できるよう、また、誰もが安心して働けるような職場環境づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時と年に1回、法人代表による『権利擁護、コンプライアンス研修』を実施している。また事業所内でも定期的にミーティング時に人権教育、啓発に取り組んでいる。	職場でのいじめなど、人権に対する研修が行われている。年2回、職員と管理者での個別面談が行われ、業務や研修について職員との意見交換がされている。高齢者虐待防止や外国人への差別禁止など、全職員対象に研修で伝えられている。研修記録を整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験値や能力に合わせて、外部研修への参加を積極的に行っている。（現在は新型コロナ感染対策上、外部研修への参加が出来ていない。） 事業所内でも、個々のスキルトレーニングを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議の参加、城南区地域密着部会での勉強会、グループホーム協議会の研修などに参加し、他施設との交流を深めている。（現在は新型コロナ感染対策上、交流が出来ていない。）		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、職員全員で情報共有シート等を作成し、本人の状況、状態、心情などを抽出し、ケアプランへの展開や信頼関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にセンター方式を記入と状況、環境等を聴き取り、困っている事、不安な事を推測した声掛けや、言いやすい環境を作り、職員全員が信頼関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人とご家族と面談を行い、ご家族からのアセスメントや、本人の現在の状態を観察した上で、毎月のミーティングで全職員から情報収集し、より良い支援ができるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に生活している場との認識を元に、本人が出来る事を見つけ出し、職員と一緒に生活活動を促し、入居者同士も一緒に活動できるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常日頃からたよりや面会時などで本人の生活状況を伝えている。本人と家族の外出、外食など、当人同士の絆を尊重した支援をしている。また家族が中心になって行える行事(餅つき等)を開催している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの聞き取りの中から、馴染みの場所に外出支援、外出計画を行っている。生まれた場所の話などを通し、回想法を使い本人が馴染みの人や場所を忘れないよう支援に努めている。	利用者の馴染みの人や場所について、家族から聴取したり、日常生活の中で利用者から聞き取っている。これまでの人間関係が途切えないように連絡や声掛けをしている。地域の方や自治会長を通じて、交流ができる取り組みが行われている。地域に対して、認知症高齢者の理解などの研修会開催で協力をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は、認知症状態が左右し、1日の中でも変化するので、一人ひとりの状態を把握し、職員が間に入ったり、入居者様が孤立しないよう席の配置をその都度考えたりしながら、入居者同士が良い関係になるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所は、契約終了は本人の逝去された時が主であるが、その後もご家族の相談や交流は行われている。契約終了後のご家族がボランティアに来られたり、ご家族からの声掛けでお芋掘りに行かせて頂いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの情報や毎日のケアの中で、常に本人の希望や意向の把握に努めている。毎月のミーティング（ケア会議）で、検討している。	日々の会話のなかで、本人の希望や意向の確認に努めている。困難な場合は家族の協力やケア会議等、職員間での共有化を図り、本人本位のケアに留意している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族等からセンター方式の記入とアセスメントを行っている。入居後もご家族からの情報収集に努め、できるだけその方らしい生活に近づけるよう工夫している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、その日その日の状態を職員間で送りやノートで情報共有し、常に現状把握に努めている。また、ミーティングの事前評価を元に話し合いを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで職員全員で話し合いが行われている。その内容により、医療の意見を聞きながら、ご家族と意見交換をし介護計画に反映している。	介護計画やモニタリング、見直し等は関係者出席のもと、定期的実施されている。課題の整理とケア改善に向けたルール化等も整備されている。家族との話し合いのもと、現状に即した介護計画が作成されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録に本人の様子、状態を記入し、職員間で共有できるように努めている。また情報共有シートを作成し、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせ、病院受診、美容室支援、買い物支援等、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の自然豊かな公園への散歩、地域カフェの参加、交流の深い近隣コンビニへの買い物、美容室への同行支援などが行われている。近隣自治会より季節を感じる花壇作りをして下さっており散歩支援をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望がある場合は応じている。希望がない場合は本人の性格や状態、ご家族の意向にあった医療機関を紹介し、本人が適切な医療を受けられるよう、常日頃から身体状態を観察し、医療に報告、早期に適切な治療が受けられるよう努めている。	受診は本人及び家族の意向に沿って実施され、適切な医療が受けられるよう支援されている。提携医の往診や訪問歯科、眼科や他科受診等々の医療連携体制が確立されている。看護師による日常的な健康管理の支援も得られている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者一人ひとりをつぶさに観察し、職場内の看護師、訪問看護師へ、報告・相談し、医療に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、すぐに情報提供を行い安心して治療ができるようにしている。また、入院中は定期的な面会や電話で、ソーシャルワーカーと情報交換を行い、早期退院ができるよう病院カンファレンスにも積極的に参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃からご家族とのコミュニケーションをとり、早い段階から終末期のあり方について本人、ご家族と話し合っている。終末期の段階に入ると、家族や医療と三者でカンファを行い、方針の共有を図っている。	「看取りケア指針」を明文化しており、入居時に家族への説明を行っている。重度化に応じて、家族や医療、事業所関係者等が課題の共有化を図り、チームケアに取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDと救命講習は行っている。定期的な勉強会は行っていないが、毎月ミーティングで起こりそうな急変、事故を話し、その時の対応等を簡単に話している。全職員への訓練等は行き届いていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。主に火災時なため、天災時の訓練は少ないが、マニュアルはある。地域との協力は、災害時の資源協力体制は約束出来ている。今年、実際に台風避難を行い。反省点を踏まえ更にマニュアル等の見直しを行っている。	地域の消防署の協力を得て、年2回の防災訓練が実施している。夜間想定避難訓練や近隣の同法人の介護施設からの支援も得られており、地域との協力体制も築かれている。非常食、飲料水、備品等はリスト化し、保管されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の今までの人生（背景）や性格、内面性を職員間で話し共有し入居者其々の暮らし方を尊重したケアを心がけている。また、身体拘束廃止委員会でも話合いの場を持ち、職員ミーティングで伝達している。	日常生活の中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに留意している。声かけや誘導等、適切な対応方法について、職員間で共有化を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から意思の伝達が困難な方が多い為、各職員が日ごろの関わりの中で表情や行動で思いを読み取れるよう心掛け、月一回のミーティングで情報共有し、本人の思いに沿ったケアを行っている。また自己表現が可能な方に対しては、傾聴し自己決定できるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人の入居者様はそれぞれ生活のリズム（時間）に違いがある。この事を職員が把握し理解し、一人ひとりの生活に応じた声かけ、誘導等を行い本人の希望にそった暮らしが出来るよう心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族からのヒヤリングによって、本人の嗜好を尊重した装いが自由に行えるよう支援している。ご本人が意思決定等が出来なくなられた方についても、ご家族からの意向、情報を元に支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みを、本人やご家族から聞き取りした好みや季節感を意識した献立作り心がけている。また、入居者様それぞれの残存能力に合わせた配膳としている。食事準備の一部や食器の片付けを職員と一緒にやっている。	法人の理念でもある「美味しく楽しく」を大切にしている。行事食や誕生日、リクエスト等、食事を楽しめる支援を行っている。メニューは食事委員が担当し、栄養バランスや旬の食材、味付け等に留意している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスについては職員の一般的な感覚で行っている。しかし、縁あって昨年より中村学園大学の栄養学科との研究連携の元、栄養、調理などのアドバイスを受けている。今後も継続し適正で根拠ある食事量、栄養バランスが確保できればと考えている。水分量は記録菓子適正量の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施出来ている。月1～4回、歯科の往診、検診があり、歯科衛生士による口腔ケアの実施と職員へのアドバイスを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、一人ひとりの排泄パターンをよみとり、トイレ誘導を行ない、トイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を用いて、排泄パターンや習慣等、一人ひとりの状況を把握している。誘導や声かけに留意し、排泄の自立に向けた支援を行っている。併せて、利用者の尊厳や自尊心等にも配慮した支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりにくい飲食物の摂取に心掛け、運動を促し、予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	概ね3日に1回（1日3名）の入浴としているが、本人の希望や衛生状態に合わせた入浴支援を行っている。入浴が楽しめるよう入浴剤の使用や本人の好みに合わせた湯温にしている。また、介護度や状態に合わせた介助により本人にとって負担にならない入浴介助方法を実践している。	入浴は週2～3回を基本としているが、希望すればいつでも対応可能な体制をとっている。一人ひとりの希望やタイミングを考慮している。入浴剤、入浴後の保湿ケア等の支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、生活リズムにあわせた休息、就寝を行っている。また、その日その時の身体の状態も配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった時は、必ず申し送りノートに記載し、変更があった場合は、何故変更になったかを記載している。お薬手帳、薬説明書も職員が見やすいところに置いている。服薬管理の大切さについてもミーティングにて全職員に伝えている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の生活歴、習慣を考慮し、役割を持った生活をして頂き、家族の協力をあおぎながら、気分転換の外出なども出来ている。職員は入居者様各自の嗜好や楽しめる事を把握し日ごろの会話や関りへ意識をもってケアを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には一人ひとりのその日の希望に沿って外出出来るように努めている。本人、家族の希望に応じ、家族の協力を頂きながら、外出レク等もしている。外出には地域自治会やご家族の財源支援も受けている。	コロナ禍のため、十分な外出支援は行われていない。ホーム周辺の散歩やドライブ等を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の所持は行っていない。近くのコンビニに行きおやつを選んで支払いをして頂き買い物等の支援は行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援をしている。電話をかける事が出来る方は、自由に電話出来るよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームで穏やかな空間作りに努め、季節感のある飾り付けを壁面に施している。共有スペースが雑然としたり不快感を感じないように心がけている。	共用の空間は、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮し、レイアウトされている。季節感やアットホームな空間づくりに留意している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子の配置は常に利用者様の状態に合わせて変えている。また、席は固定せず、その日の本人の心情に合わせて座って頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人や家族の好みに合わせ、自由に空間作りをしている。愛着のある家具や嗜好品等を自由に持ってきて頂いている。	居室は各部屋とも、利用者の好みのものや家族の思いが詰まった個性的な部屋づくりとなっていて、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間（リビング、廊下、トイレ）は手すりなど設置し、自立支援出来るようにしている。また居室内も個々の自立度に合わせた環境作り（家具の配置等）を行い安全に暮らせるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの目立つ場所に理念を掲示し、各職員は常に意識をしている。理念を念頭に、時に振り返りながら日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の影響もあり、現在は自粛状態だが、地域の行事には、利用者・職員共に積極的に参加している。また地域の自治会とは電話等で連絡を取り合っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症110番の家』として、介護や認知症に関わる相談を受け入れる体制となっている。現在は自粛しているが、運営推進会議でも認知症の症状・現在の状況、支援内容など説明し理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住人や民生委員、行政他施設職員などを招き、年6回実施していた。コロナ禍もあり小規模での開催も考慮しているが、参加者の安全を考慮し、現在は中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会を通して情報共有など行っていたが、感染症拡大もあり現在は未実施。そのため電話等で連絡を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月毎に身体拘束・介護技術委員会を行っている。各ユニットの現状や身体拘束になり得る事例の検討を行い、議事録閲覧や毎月のミーティングにて啓発を行っている。また法人代表による社内研修を行い、意識を高めている。施錠については、防犯のために夜間は施錠しているが、その他の時間は常に開錠している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に、弊社代表による高齢者虐待関連の研修を行っている。また身体拘束・介護技術委員会にて虐待になり得る事例などの検討を行っている。検討内容は、議事録閲覧やミーティングにて周知し、事業所ごとの研修など啓発している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度に関する資料をまとめ、いつでも閲覧できるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書・利用契約書に沿って説明している。改定時も、ご家族が来苑された際や書面、電話にてご説明している。契約や改定に関する不安や疑問点は、ご家族の納得・理解が得られるまでわかりやすく説明するよう心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本来は年2回の家族会を開催し意見交換を行っていたが、感染症の影響もあり、今年は開催を自粛している。ご家族が来苑された際にご意見を伺うようにしている。また玄関に穂意見箱を設置し、自由に書いて頂けるようにしている。頂いた意見に関しては、ミーティングなどで周知し、運営に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングの他、個人面談や人事考課など、職員の意見・提案を機会を設けている。頂いた意見は、法人全体でのミーティング等で共有し運営に反映させている。また法人代表も出席する事業所の全体会議を開催していたが、感染症の影響もあり現在は中止している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表・管理者による人事考課を行い、職員の生活環境を含めた状況把握に努めている。職員や施設の状況変化に対し、施設長や法人代表とも検討し、適宜就業時間や業務内容の見直しを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	国籍や性別、年齢の制限なく職員募集や採用を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回、法人代表による研修を行っている。 事業所内での研修も行い、職員に対する人権教育・啓発を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの技量・力量を把握し、それぞれに必要なと思われる研修参加を提案し、スキルアップに努めている。資格取得に際しては、勤務の調整や費用の法人負担など支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の影響もあり、運営推進会議への参加依頼や他施設の会議参加は自粛している。グループホーム協議会のリモート会議などを通じて、同業者との交流を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居前の自宅訪問にて本人とご家族を交え、情報交換や意見交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や自宅訪問・面談の際にも、ご本人の状況の他、ご家族の想いや意向をお尋ねしている。来苑時やお電話にて情報交換を行い、不安や要望等をお伺いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等でアセスメントを行い、必要と思われる支援を設定している。月例ミーティング等で情報収集を行い、その後の支援内容に反映させている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の理念に沿って、利用者の尊厳を尊重しながら、それぞれ性格が違う利用者の皆さんが家庭的で明るい生活が出来るよう職員も関わっている。可能な方には長年の馴染みのある作業などお願いし、共に支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況等については、随時面会やお電話にてお伝えし、必要な支援をお願いしている。通院や入院時の対応についても可能な限り協力頂いている。ご家族にお願いするだけではなく、入居直後などご家族に介護疲れが見られる際には面会など一時中断し、ご家族の気持ちが整ってから面会・交流して頂くなど、ご家族の心身に負担を与えないよう配慮している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、感染症の影響や利用者の重度化など馴染みの場所への訪問は難しいが、ご家族の協力を得ながら、馴染みのある方の面会など関係性を維持できるよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの心身状態の差はあるが、相性も踏まえ、入居者同士が関わりを深める事が出来るよう座席位置を配慮し、職員が間に入りコミュニケーションをとっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も定期的に連絡を取り合い、関係を維持できるよう努めている。ご家族が運営する農場に招かれたりされ、関係を維持できている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で本人の意向を確認・把握できるよう努めている。困難な方には今までの生活歴やご家族にも意見を伺い、本人の意向に沿った暮らしが送れるようケアプランに反映させている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人やご家族に聞き取り、またはアセスメントを基に生活歴を把握し、必要に応じて、更に情報提供いただいている。居室の整備には馴染みの物品を持ち込んで頂き、慣れ親しんだ環境に知被ける事が出来るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わった職員全てが、その時々の様子や気付きを経過記録に記入している。また月例ミーティングにて情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者によるモニタリングを基に月例ミーティングにてアセスメントしている。主治医など医療関係者やご家族からも意見や助言を頂き、介護計画に反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を、関わった職員全員で経過記録に記入。各職員間で情報共有できるようにしている。利用者の状態によっては情報共有シートや状況チェックシートを使用し、その方に合った介護計画や実践につなげている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて、受診等の支援を行っている。コロナの影響で自粛しているが、買い物や美容院への同行支援は、今後も継続していく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会が散歩道を整備されており、散歩に利用させて頂いている。感染症もあり地域へ出かける事は難しいが、自治会や育成会から七夕飾りを届けて頂くなど、地域と利用者の繋がりは保っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向に沿って対応している。希望がない時は、本人の心身の状態に合わせた医療機関を提案している。適切な医療が受けられるよう医療と連携し適切な治療が受けられるよう努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の様子を観察し、経過記録や情報チェックシートを活用し情報共有している。気づきや情報については主治医往診や所属の看護師、訪問看護へ報告し指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や入院中の情報共有に努めている。病院側とも連携し、利用者の早期退院に繋がれるよう受け入れ態勢を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には看取りケアについて説明を行っている。入居者の症状の進行によって、かかりつけ医からの意見もいただきながらご家族と看取りケアの話し合いを行っている。利用者・ご家族の意向を汲みながら、苑の看取りの方針に沿って支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の心身状態によって起こりうる事故や急変については、月例ミーティングなどで主映している。コロナ禍以前は、外部研修への参加や社内にてAEDの勉強会に参加していた。今後、施設内研修にて救急対応の勉強会を行う予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を行っている。本来は消防所や地域住民代表にも立ち会って頂くが、このところの感染症もあり、訓練内容を通知したうえで訓練している。訓練については消防とも連携し、助言を頂いている。また大雨や台風災害を想定した災害発生時の避難ガイドラインを策定している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居に至るまでのその方の生き方や生活歴、また人となりを理解尊重できるよう、職員間でも話し合い、その方に合った接遇が出来るよう心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、思いや希望を読み取る様努めている。意思疎通が難しい利用者もおられるが、その方の動向や表情の変化を観察。職員間で共有しながら、思いに沿ったケアが出来るよう努めている。自己決定も本人の思いを基に、様々な選択肢を提示し、意向に沿えるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースや状況に合わせて、その方の意向を確認し、思いに沿えるよう努めている。職員主体とならず寄り添えるよう、業務に囚われる事なく柔軟に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の嗜好や馴染みのスタイルを勘案し、更衣・整容を行っている。自身で難しい方は、ご家族の協力を得ながら、好みの身だしなみが出来るよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が慣れ親しんだ料理や味付けを考慮した上で献立が作られている。現状、調理など出来る方はいないが、調理や味付けの助言をいただいたり、盛り付けをして頂いている。片付けも、出来る方が食器拭きなどをやりがいを持たせて頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や瑞文摂取量は、随時記録に残し、必要な栄養・水分量を摂取できるよう努めている。利用者一人一人に合わせ、糖分の調整や薄味、刻みやペースト食など提供している。医療・歯科医とも連携し、その方の体調や嚥下状態に合わせた食事を提供し、美味しく楽しく食べて頂けるよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとの口腔ケアを実施している。ご自分でされる方も職員が最終チェックを行っている。歯科衛生士による口腔ケアも定期的に受けており、いただいた助言も取り入れ支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行い排泄をしていただいている。リハビリパンツやパット使用の方もおられるが、ご本人の状態に合わせ適宜見直し、可能な方はトイレでの排泄を継続している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中に牛乳やヨーグルトなどの乳製品の摂取を行っている。また水分摂取量にも注意しており、水分の味や形態には拘らず、好きな飲み物やゼリー等、利用者が摂取しやすい状態で提供している。また日々の運動の他、困難な方には他動運動やベッド上でのストレッチを行い、便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、利用者の状況や希望に沿えるよう柔軟に対応している。入浴剤の他、菖蒲湯など季節の入浴法も取り入れ、入浴を楽しんで頂けるよう名工夫を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や体調を鑑み、状態に合わせて休息や睡眠をとって頂けるよう支援している。またスケジュールありきではなく、例えば眠れない方は温かい飲料をお出し、一息ついて休んでいただくなど気持ちよく休んで頂けるような工夫を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった際は、処方内容や効能を周知し、不明な点はお薬手帳や薬局に問い合わせ確認している。また服薬による変化も記録に残し、必要に応じて対応できるよう医療・薬局と連携している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの能力に応じた家事活動や日課活動に参加頂いている。食器拭きなど作業を楽しみにされている方もおられるが、体調面も考慮しながらお誘いしている。嗜好品もご家族とも相談の上でノンアルコールビール等提供している。適宜、外気浴や散歩などお連れしリフレッシュできるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は自粛しているものの、天候や利用者の状況を考慮しながら近隣の散歩やドライブへお連れしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者から金銭や財産はお預かりしていないが、必要な方には立替し買い物をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は特に制限しておらず利用者の希望によって自由に電話を使用して頂いている。ご家族の協力もあり、定期的に電話をかけていただき、利用者との家族の交流を支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に沿った飾りつけを行い、調光や室温にも配慮の上で暖かな空間に出来るよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は、利用者の相性を考慮し配置しているが、特に固定しているわけではない。利用者の状態によって逐次変更している。また廊下のソファは、利用者同士で談笑されたり、うたた寝されたりと自由に使っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと、今までの生活で馴染みある家具や物品を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるよう配慮している。居室のレイアウトも、利用者の状態によって変更している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できるよう手摺等設置している。苑内を迷われる方もおられるが、読みやすい・認識しやすい表示を行い、利用者が自由に行き来できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		